

## 焦る被告川上!!形振りかまわず狂奔!!

〒768-0011

[6月5日号の被告川上の記事]これは、現在公判中の(平成24年(ハ)第10号)名誉毀損損害賠償請求事件への被告川上の陳述書(1)「乙第1号証」の転記だ。文中の表現で「寝返った」とか「乗り換えた」「見捨てた」そして「裏切った」と表記しておくが、このように断定、断言する場合の常識は、原告が構成員又は、準構成員であった場合に用いる文言である。このような事実の無い原告を、何がなんでも被告川上の描く筋書きのような人物に仕立てようと、あらゆる詭弁を弄し、その事を追求されるやこれ又、厚顔にも「情報源へ迷惑がかかる」等と証拠を示されない事の言い逃れにしている。尚、記事の多くが原告には何の関係も無いものである。さて、6月8日に第3回公判がありました。今回も被告川上は姿を見せませんでした。代理人の生田弁護士さんとは2回目の対面で、開廷前の待合室で20分程会話しました。人間とは不思議なもので、前回初対面の折の挨拶で、今回は何となく親近感を覚え、相方雑談しあいました。代理人は職業上、依頼人側に立っており、個人的には何の思いも無く、公判後も気持ち良く挨拶して別れました。こんな立派な代理人さんに依頼したのだから、被告川上は先ず「ネズミ講」について勉強しなさい。つまり「無限連鎖講防止法」についてだよ川上くん。言うまでも無い事だが、自分の発言や、特に文章、字句に責任を持つことだよ。平成23年12月5日発行の四国タイムズで、原告に対して挑発を始めて以来、連続して本年1月号、2月号、3月号、4月号、5月号、6月号において、捏造記事を妄想や、伝聞、噂話に尾ひれを付け、大袈裟に誇張して中傷、誹謗を繰り返している。ところが、原告の予想外の反撃に形振りかまわず、被告川上が平成23年12月5日発行の四国タイムズ記事中に乱暴にも「企業舎弟見習い」と一方的な因縁を付けた相手にさえ、厚かましく原告に関する情報を求める面談を要請し、断られると電話を2回に渡ってかけ、情報収集を試みる等、必死で走り廻っているようである。又、一般社会において、どこの営業マンや、会社員、企業他でも使う名刺で、原告が、かつて卸売りにしていた折の、販売者の名刺で、この人を原告の相棒等と悪意の表現を行っておる。しかもこの名刺を証拠等と「乙第8号証」として陳述書(3)「乙第6号証」に「原告木下の丸の中に「K」というマークを入れて営業しているようだ。」と記しておくが、この「K」は原告木下を表す物でなく、製造発売元メーカーの記章である。この一点からも、如何に被告川上の情報、裏付けが、いい加減であるかを物語っておる。「しっかりと確認せんかいな!!」又、恥をかきましたね川上くん!とにかく知りたい事があれば、前にも伝えておるが、怖がらずに「直撃取材」にいらっしゃいよ!他建築代を踏み倒した等と記事化しておるが、そのような事実が無い事は「平成10年(ワ)第41号」事件で証明されておる。またまた大恥をかきますよ!ところで、毎号で執拗に現知事を記事化する発端となった、2年前の6月13日、観音寺の白川市長の仲介で、観音寺グランドホテルでの面談において、

裏面に続く

川上の目論見が外れた現知事の対応に腹を立てて、事もあろうに仲介の白川市長へ逆恨みの矛先を向け、一連の悪質な中傷報道へととなった。(こんな川上を白川市長が何故、仲介して浜田知事に会わせたのか不思議?)「坊主憎けりゃ袈裟まで憎い」とばかりに悪罵の限りを書き連ね、関係者F氏、T氏等へも、紙爆弾攻撃する無法極まる行為に、ついに川上の術中に入った当事者と、G社、J社のM氏、H氏による仲裁手打ちが高松市内の料亭〇〇〇で行われたとの事は、多くの人達の知るところではあるが、今回、四国タイムズで川上自身が6月5日号の4ページ左下段で、6月2日現知事後援会総会場において、川上が会場から「つまみ出された」時の記事中に、2年前のやり取りを改めて記すことは、忘れかけていた事を思い起こさせる事になり、川上の思慮の浅さに、手打ちをした関係者の方は、さぞかし、やきもきされたことでしょう。秘密事は相手のためにも守ってあげることですね。又、末尾に「失礼ではないか!」と会場から追い出される際、会場に向かって一言怒鳴った。と厚かましく記しておるが、川上自身、毎号記事で言いたい放題の暴言や放言等の方が、よっぽど失礼、無礼である。「自分の屁は臭くない」とはよく言ったもので、最近笑うことの少ない筆者だが、川上くんの記事の滑稽さや、間抜けさには、思わず苦笑してしまったよ。ところで、川上くんは誰のために原告を挑発しているのかね?これまでの主張で、段々真相が見えてきましたよ。川上くんが尊敬するその人の教唆との疑念を抱かせるように記す事は、結果的にその人の、任侠道での俠名を晩節汚す事になるんだよ川上くん!トップが代われれば、新体制下の運命を受けるのは、古からの世の中の理りだよ。これを裏切り等と邪推し、思い込むのは筋違いだね。本当なら運命に逆らえない結果に、これまで子飼いの人達が進む道へ、「頑張れ!」とエールを送られてこそ、さすがはと大勢の者が、その度量と器の大きさに感銘するのではと思うのだがいかがかな?さて、川上くん?もっと国語の勉強をして正しい表現をしなさい。「寝返った」とか「裏切った」とは適切な表現ではないよ。それは、原告が組織等に正式に登録されていた場合に使う言葉です。最近、何回か「四国タイムズにもつれ込む」と泣き言に聞こえる文語が見られるが、被告川上は、先に自らが仕掛けた事実を忘れないでね。原告が即反撃するのは、常在戦場。いつの世も男の生きる姿勢(国も同様)不法、不当な攻撃への即応態勢は至極当然です。まあ、前にも述べたと思うが、被告川上のお蔭で、毎号ごとに原告発行の「四国時報」への評価が高まり、被告川上発行の四国タイムズと対比して、その質の大差異を認めて下さる方が増えています。被告川上には、真にお気の毒ですが、「貴方の目論んだ」四国時報潰しの試みは、ここに頓挫しましたね。

お蔭様で、昨今は、それなりの地位にある方達からの相談事や、投書が多く寄せられております。これは憚りながら、当四国時報の報道記事の内容に被告川上の言うような筋からの指揮、指令等、どこからも感じられず、本当に庶民の身近な問題や、公共性のある事案等、とかく、この世には「目開き千人、盲目千人」で、人もこれまた「百人百様」です。今後も当四国時報にご声援、ご支持下さる賢者の皆様に元氣と勇気を頂きながら初心貫徹に向かって邁進する覚悟です。当然、不当な挑発行為へは、断固対処致しますので、ご後援の皆様には、ご安心の上、お見守り下されば幸甚に存じ上げます。

[文中一部敬称略]

反撃は果てしなく続く!!